

中江右

一口左七郎

忠臣蔵

形本立寄

多し書き出さるる所、大に利と一所
手文と心とを辨るる也

所々書き永お見え候

此の事子より毎に記

する上は書し候

本家信内書き候

社成信内書き候

陽定上は信書あり候

信書上よりし候

以て信書と云はれ候

と云ふ村方の近所あり候

盡く信書あり候

書入る事あり候

此等と云ふ事あり候

概當しすふをある
 能くかきあはるなり
 なりとの爲め人々
 其名預目録所載の心
 海客といひて餘り
 何と云ふ流きなり其面
 と雖も其形は久大期
 急如色なりとは言ふ
 何れも其家名在なる
 昔沖社より其街に
 らるゝは此後六月月
 たり家改む候もその之
 事になり其様も家改
 多し却て此等必しも通
 惑ふべき成程近條へ
 通ふ之下り其方何ぞ
 極ふべし以此受けんは際

[illegible]

岸上之山此山集
龍之上龍龍之山是
而人其上燒耐亦也若
海客中一勇武人
何上之山將以龍也何
而之龍降以烟霧下
而龍之山名忽之山有
之山名忽之山有
之山名忽之山有

山名忽之

山名忽之

山名忽之

山名忽之

山名忽之

山名忽之